



『感謝』は自分の心にあたたかい灯をともし

～「ありがとう」の反対は「あたりまえ」～

『感謝のキャッチボールが幸せのホームランとなる』（作者不明）



- あと1週間あまりで「物事が成長・発展し、形を成す年」といわれた辰年（2024年）から、「再生と変化の年」「成長や変革の年」とわれている巳年（2025年）に変わります。そこで2学期の終業式では、生徒一人一人の内面的成長を願って、『感謝』の持つ大きな力について話をしました。（以下、式辞の一部）

（前略）人は何かをしてもらった時に、感謝の気持ちを込めて「ありがとう」と言います。

いろんな説がありますが、『ありがとう』は「有り難き」が語源で「有り難う」と書きます。「有るのは難しい」「滅多にない」「そうそういつもない」という意味ですから、「ありがとう」の反対の言葉は？というのと、「あたりまえ」なのだそうです。

人から受ける気遣いや親切が「あたりまえ」だと思っていると、感謝の気持ちを忘れがちになり、感謝しなくなってしまいます。「あたりまえ」という感覚は、人を鈍感にします。今、ここにこうしていることはもちろんのこと、何げなく過ごしている日常も、実は「あたりまえ」のことではありませんよね。皆さん一人一人が、「あたりまえ」と思っていたことを、今一度、考えてみてください。

さて、人はこの感謝の気持ちを受け取ると「うれしくなる」「幸せな気持ちになる」というのが人間の心理です。

また、感謝の気持ちを伝えると、「心や体の健康に影響する」「睡眠の質を左右する」「人間関係に影響する」「幸福度に差が出る」「成功をつかみやすい」など、さまざまなメリットがあるそうです。

つまり、幸せを感じるのは「感謝された側」だけではなく、「感謝した側」もまた、幸せな気持ちになる。『感謝』はしてもされても、あたたかで幸せな気持ちになるというところに、『感謝』の持つ大きな力があるのですね。

「あたりまえ」に見える日常の中に、たくさんの小さな『感謝』を見つけて、それを表現しましょう。どんな時も、きちんと『感謝』を伝えることで、人と良好な関係が築けるようになります。お世話になった時や、親切にしてもらった時、感謝の気持ちをきちんと表現していきましょう。（後略）

- また、この2学期は、学校外での仰木中生徒の善い行いに、何件も『感謝』の連絡を受けたり、お褒めの言葉を聞いたりすることがありました。いずれも、学校外など、先生たちが見ていないところでの行いです。こんなに素晴らしい生徒が仰木中にいるということに、とても感動しました。仰木中生の立派な行いを大変誇らしく思います。改めて、全校生徒にも知ってもらいたいと思い、終業式では次のエピソードを紹介しました。

エピソード① 10月下旬 1年女子12名 下校途中 転倒、負傷した高齢女性を介抱

1年のある女子生徒が、下校途中、高齢の女性が段差につまずいて転倒し、負傷した状態で道に横たわっておられたところに遭遇しました。「大丈夫」と言われたそうですが、頭と足を怪我されていたので、その女子生徒は119番に通報し、救急車を呼んだそうです。後からその現場を通りかかった女子生徒のグループが、3人、2人、また3人、さらに3人と加わって、みんなでその方の家を探したりしながら、救急車が来るまで待っていたとのことでした。翌日、この女性のご家族から中学校に電話があり、大変感謝しているとお言葉をいただきました。

エピソード② 11月 2年女子1名 下校途中 小学生同士の自転車事故に遭遇 小学生を助ける

下校途中に、小学生同士の自転車事故に遭遇した仰木中2年の女子生徒が、一緒にいたもう一人の中学生とその小学生を助けてくれたということで、翌日、該当の小学校から連絡を受けた教育委員会が仰木中に報告してくださいました。数日後、小学生の関係する児童クラブの方からも感謝とお礼の連絡がありました。

エピソード③ 11月 2年 幼稚園の作品展訪問 自発的な事前の行動に驚嘆

校長が地域の幼稚園の作品展に行ったときのことで、園長先生が「実は昨日、職場体験で来てくれた2年生が、“作品展を見に行きたいですか？”“って電話をして来てくれたんですよ！”と、とてもうれしそうに話してくださいました。それだけでなく、園長先生が感動しておられたのは、その電話の時に、少し話し出してから、“あっそうだ！”と思い出したように、「先日は、職場体験でお世話になり、ありがとうございます。」と改めてお礼の言葉を言ってから、作品展訪問の続きの話をしたということでした。園長先生は、中学生の立派な対応にとっても感心し、感動しておられました。

エピソード④ 12月 仰木の里幼稚園を仰木中グラウンドご招待 男子中学生の優しいかわりに感動

12月5日、屋休みに仰木の里幼稚園の子どもたちを中学校の大きなグラウンドに招待し、中学生といっしょに遊ぼうというイベントが実現しました。その屋休みは、学年を問わず、本当にたくさんの人がグラウンドに出てきて、積極的に子どもたちと関わっていました。その様子を見て、幼稚園の先生方はとても感謝しておられました。その中で、こんなエピソードを教えてくださいました。軽トラが好きな男の子と交流していた中学生の男子が、男の子を抱き上げて車の中を見せてあげたりして交流していました。その男の子は車のエンジンが好きな子だったので、中学生がよく見えそうなところを探して「こっちから見たらエンジンがよく見えるよ」と教えてくれていたそうです。その優しさに園の先生はとても感動しておられました。

■ こういった数々の行いによって、それぞれの心に『感謝』の気持ちが生まれ、その、「感謝する・される」の関係が、さらなるつながりを生み出し、あたたかで幸せな気持ちにさせてくれました。頼ったり・頼られたり、支えられたり・支えたりという相互関係で成り立つ社会において、『感謝すること』は、人と人をつなぐ潤滑油のような行動といえます。「当たり前」に慣れてしまわず、「感謝」すること、「感謝」を言葉にして伝えることを、これからも大事にしていきたいと思います。話をし、感謝にまつわる数ある名言からいくつかを紹介して、終業式の校長からのあいさつとしました。

『不満はね、ストレスの素よ。感謝はエネルギーになるのよね』

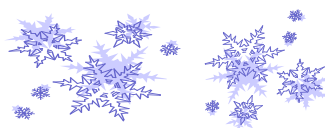
(女優 森 光子)

『感謝の心が高まれば高まるほど、それに正比例して幸福感が高まっていく』

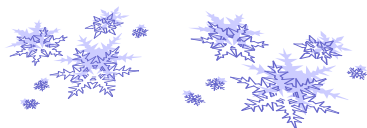
(パナソニック創業者 松下幸之助)

『人が人よりも機械を信用し、人の情熱や誠意よりも数字を信頼し、社会が人を信頼しなくなった時、感謝の気持ちは存在するのだろうか』

(マーヴィン・トケイヤー アメリカのユダヤ教指導者、教育家)



仰木中生の活躍

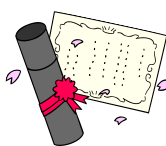


※2 学期終業式で表彰伝達したものです。

- 滋賀県 第27回中学生広場「私の思い2024」大津市広場 **賞状** 3年 ○○○○○○ 『私の発表をきっかけに』
- 第68回 滋賀県学生科学賞県展 **賞詞** 1年 ○○○○○ 『身近なもので庭の除草はできるのか?』
- 令和6年度 中学生の「税についての作文」 **大津市納税貯蓄組合連合会会長賞** 3年 ○○○○○
- 令和6年度 中学生の「税についての作文」 **大津市租税教育推進協議会賞** 3年 ○○○○○○
- 第52回 JA 共済 滋賀県小・中学校 書道コンクール 条幅の部 **銀** 2年 ○○○○○○
- 第52回 JA 共済 滋賀県小・中学校 書道コンクール 条幅の部 **佳作** 1年 ○○○○○
- 第52回 JA 共済 滋賀県小・中学校 書道コンクール 半紙の部 **銀** 2年 ○○○○○○
- 第49回 「ごはん・お米とわたし」作文・図画 滋賀県コンクール 作文の部 **佳作** 3年 ○○○○○

【1月】	6月	3年実力テスト
	7火	始業式
	9木	給食開始
【2月】	23木	学校協力者会議②/学校運営協議会④
	28火	児童向け入学説明会 第2回仰木サミット
	3月	保護者向け入学説明会 3年県内私学入試
	5水~6木	県立高特・推・スポ文推選抜入試
	7金	学校運営協議会⑤ 県内私学発表
【3月】	10月~	県外私学入試
	13木~14金	3年期末テスト
	13木	県立高特・推・スポ文推選抜発表
	25火~26水	1,2年期末テスト
	28金	避難訓練
	3月	3年模擬テスト
	5水~6木	県立高校一般選抜入試
	7金	3年卒業記念行事
	10月	卒業式予行/式準備
	11火	卒業式
	12水	県立高校発表
	17月	給食終了
	19水	大掃除
	24月	終業式・修了式

＜3学期の行事予定＞



相談のしおりづくり

12/5(木)、堅田少年センターと大津北警察署少年補導員会から補導員さんが来てくださり、新入生に配付する押し花入りの相談のしおりを、生徒会執行部と美術部とで作りました。



ひとりで悩まず 相談を！
077-573-9000



保護者のみなさまへ



～大津市・大津市教育委員会からのお知らせ～

【子どものこんな変化に注意してください】

いじめや友達との関係、学習のことなど、子どもが悩みを抱えていると、いつもと違う様子を表すことがあります。

- **からだの調子** (食欲がない。頭痛、腹痛、吐き気など体調が悪い。寝つきが悪い。等)
- **表情や態度** (いつになくそわそわしている。イライラしている。学校に行くことを嫌がる。等)
- **持ち物の様子** (おこづかいが早くなる。持ち物がよくなって汚れていたりする。携帯に敏感に反応する。逆に全く携帯を見なくなる。等)

もし気になることがあったら、子どもを問いつめずに、「あなたのことを大切に思っているよ」というメッセージが伝わるように話を聴いたり、担任や子ども支援コーディネーター等にご相談ください。